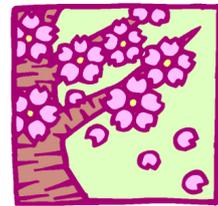


みたか環境ひろば 第47号

平成 26年 4 月 1 日号



■おすすめ！ ダンボールコンポスト

エコサイクル・みたか 山田和美

地域で生ごみを焼却せずに処理しよう！堆肥を作って使いまわそう！という活動を始めて4年半が経ちました。今まで地域の活動らしきことを何一つしてこなかった私が踏み出した小さな第一歩が「エコサイクル・みたか」です。ご自宅に庭のないアパートやマンションにお住まいの方でもダンボール箱と土さえあれば生ごみは処理できます。

ダンボールコンポストを作る時に必要なものはみかん箱大のダンボール箱二枚（底と周りは強度を上げるため二重に。虫や臭い対策にフタも作ります）、そして基材と呼んでいるピートモスやくん炭（たん）だけです。土壌改良剤でもあるピートモスやくん炭は生ごみを分解する微生物のすみかとなります。一日一回生ごみを入れては混ぜ、入れては混ぜの繰り返し。量は加減・調節してください。あまり固いものは入れない方がいいかもしれません（発酵が遅かったり発酵しないものもあります）。開始から一週間程経つと分解が始まり、基材の温度が上がります。微生物が活発に働いている証拠です。三か月程は生ごみを処理し続けられ、その後寝かせて発酵、半年後には生ごみ堆肥が出来上がります。最近では作った堆肥を近隣の自治会の花壇の中などに入れていただけるように。それが縁で様々なイベントに参加してコンポストの展示をしたり、と活動の輪は確実に広がってきています。

誰にでも手軽にでき、生ごみを燃やせるごみの日に出すことが減りますよ。さあ、ぜひ始めてみてください。



ダンボールコンポストを作成している様子



問い合わせ先 エコサイクル・みたか 山田
メールアドレス：kazu3964@za.bb-east.ne.jp

■ごみのポイ捨て ～スポーツGOMI 拾い大会で感じたこと～

昨年の11月23日、新しいごみ処理場である、ふじみ衛生組合クリーンプラザで開催されたふじみまつりにて、スポーツGOMI拾い大会を行いました。9グループ・34名のメンバーが集まり、クリーンプラザ周辺の道路のごみを集めました。今回で3回目のスポーツGOMI拾い大会ですが、大会で集めたごみの量は、1回目（53名参加）74.7kg、2回目（31名参加）38.25kg、今回3回目（34名参加）17.87kgと少なくなっています。当日は他にも2団体が近くでごみ拾いをしていたこともあるのですが、目立つごみはほとんど落ちておらず「ごみを捨てない」ことのマナー意識が少しずつでも芽生えてきているのだとしたら嬉しい気持ちになりました。ところがバス停、横断歩道など立ち止まる所や垣根の根本には、煙草の吸殻や空き缶、空き瓶、キャップなどがまだまだありました。吸殻については、わざわざ側溝や用水マスに捨てる人を何人か見かけました。

普及してきていますが携帯吸殻入れを持ち歩いている方も見かけます。もちろん歩きタバコを勧めている訳ではありませんが、木陰やベンチなどで、ホット一息付きたい時には、携帯吸殻入れがあればごみは出ません。綺麗な道路にはごみは集まりませんが、少しでもごみがあると自然とごみが集まって来てごみ捨て場のようになります。世界的に見れば断然に日本の路面は綺麗です。住民一人ひとりが意識をもって行動しているからこそ綺麗な街、市となっているのだと思います。

スポーツGOMI 拾い大会によってごみを拾う事が気持ちよく、楽しい行動だと意識して頂けたら嬉しい限りです。（西山）

右の表は各大会で集めたごみの種別内訳。
(単位はkg)

	燃えるごみ	燃えないごみ	プラスチック	ビン	缶	ペットボトル	吸殻	合計
平成23年度	14.4	33.2	2.9	15.15	5.5	2.45	1.1	74.7
平成24年度	9.2	17.35	3.15	0	6.85	1.05	0.65	38.25
平成25年度	5.56	7.71	1.37	1.45	0.88	0.48	0.42	17.87

※平成25年度については、ごみ拾いの範囲が若干異なります。

■自転車大国 オランダ

オランダと言えば、チューリップ、風車、干拓地などが思い浮かぶと思いますが、実は「オランダと言えば自転車」と言われるぐらい自転車大国なのです。私は、オランダは平坦な土地なので昔から自転車が多く利用されていたのであろうと思っていたのですが、自転車大国になるには紆余曲折の長い歴史があったのです。

第二次世界大戦以前は主要な移動手段は自転車でした。しかし1950年代、1960年代になると他の国と同様自動車中心の社会になり、オランダ国内の道路は自動車で溢れかえるようになり、市の広場は駐車場と化し、自転車は道路の縁へと追いやられることになりました。自動車の飛躍的な増加は、交通事故による死者数の増大を招き、1971年には事故で亡くなった人の数が3000人を超え、そのうち子供が450人でした。結果、子供のための安全な交通環境を求める市民運動が起こったのです。その要求は、1973年に起こった石油危機とも相まって、国の政策を変更させ、自転車利用のインフラ整備を加速させることとなりました。そして2010年には、子供の死者数は14人にまで減少しました。また、駐車場と化していた市の広場を取り戻そうと、市街地の車の乗り入れを制限しようとしたのですが、当初は、店主たちが商売が成り立たないと大反対しました。しかしながら、関係者が何年も何年も話し合い、ついに市街地の車の乗り入れを制限し、車のない憩いの広場を取り戻したのです。

今では、綺麗な空気の中、皆が自転車に乗ってゆったり買い物を楽しんでいます。市民の強い熱意が、生活環境を変え更に、国の有り様まで変えるなんてすごいですね。最後に、オランダでは、乗る人と自転車が共に人生を歩み、修理しながら何十年も使い続けるそうです。新しさや性能よりも愛着が大事と言う価値観なのでしょう。私たちも見習いたいものです。

(岡村)



自転車優先を意味するオランダの標識

■リサイクル情報

環境への取り組みの身近な例の1つに、紙パックや食品トレー、ペットボトルなどを自主的に回収ボックスに出すことが挙げられます。その先に目を向け、視野が広げられるようなウェブサイトをいくつかご紹介します。

『日本製紙連合会』：「環境への取り組み」には回収された古紙がどのように再利用されるのか、そもそもなぜ古紙を回収するのかなど、紙のリサイクルに関する様々な情報が掲載されています。

『日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所』：「調査研究」に海外のリサイクル事情が載っており、古紙や廃プラスチックなどの再生資源を輸入している国があることが分かります。

『経済産業省キッズページ』：日本のリサイクルの仕組みが子供にも分かるように簡単に幅広く紹介されています。

1人でできることは限られていますが、ちょっとした知識が環境に対する意識につながるのではないかと思います。(上笹)

環境掲示板

「春のフリーマーケット開催」 主催：三鷹市 日時：平成26年4月12日(土曜日) 午前10時～午後2時 場所：三鷹市リサイクル市民工房 対象：どなたでも 定員：なし 申込：直接会場へ 問合せ：ごみ対策課(内線2536)	「赤い目をしたうさぎさん」 作り 主催：三鷹市 日時：平成26年4月30日(水曜日) 場所：三鷹市リサイクル市民工房 対象：どなたでも 定員：8人(申込多数の場合は抽選) 料金：無料 申込：4月22日(火曜日)必着で、 往復はがきでごみ対策課まで 申し込む 問合せ：ごみ対策課(内線2536)	「環境展」 主催：三鷹市 日時：平成26年6月2日(月曜日) ～6月6日(金曜日) 場所：三鷹市役所本庁舎1階ホール 内容：環境に関するパネルの展示 対象：どなたでも 定員：なし 料金：無料 申込：ご自由にご覧いただけます 問合せ：環境政策課(内線2525)	「エコミュージカル」 主催：みたか環境活動推進会議 三鷹市 日時：平成26年6月15日(日曜日) 時間未定 場所：三鷹市公会堂 対象：どなたでも 定員：650人 料金：無料 申込：詳細は6月1日号広報みた かでご確認ください 問合せ：環境政策課(内線2525)
--	---	--	--

編集後記

今年の2月には多くの交通機関が麻痺するほどの大雪が降りました。地球温暖化は地球の気温上昇だけではなく、大雨や大雪などの異常気象も引き起こすともいわれています。今回記事にしましたごみの減量やリサイクルなど、一人ひとりの意識が地球温暖化を防ぐということをお多くの方に知っていただきたいと思ひます。(入江)

次の発行は平成26年7月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
(愛称 みんなの環境)
連絡先：三鷹市環境政策課
電話 0422-45-1151 内線2523・2524
e-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp
本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。